

学位論文要約

家庭科における概念型カリキュラム開発に関する研究  
-家政学の視座から持続可能性の概念を育む授業モデルの提案-

広島大学大学院人間社会科学研究科  
教育科学専攻 教師教育デザイン学プログラム  
人間生活教育学領域

D204003 竹下 浩子

# 論文構成

## 序章 研究の背景及び目的

- 第1節 研究の背景と問題の所在
- 第2節 研究の目的
- 第3節 論文構成と研究方法

## 第1章 家政学の視座における家庭科の持続可能な社会の概念型学習の可能性

- 第1節 持続可能な社会と教育の世界的潮流
- 第2節 家政学における持続可能性の概念
- 第3節 消費者教育における持続可能性の概念
- 第4節 家庭科における概念型学習の可能性

## 第2章 家庭科の概念型カリキュラム構築に向けての理論的探究

- 第1節 概念型カリキュラムの特性と課題
- 第2節 先行研究にみる家庭科の概念型カリキュラム構築と実践の可能性

## 第3章 「技術・家庭」家庭分野での概念型カリキュラムの構想

- 第1節 概念型カリキュラムの構造
- 第2節 概念的理解を促す6つのエントリーポイント
- 第3節 6つのエントリーポイントと学習指導要領との関連
- 第4節 「技術・家庭」家庭分野における概念型カリキュラム

## 第4章 「技術・家庭」家庭分野での概念型学習の実践

- 第1節 概念型探究の学習サイクルモデルの汎用性の検討
- 第2節 概念型探究を中心とした衣生活内容の授業デザイン
- 第3節 学習効果の検証

## 第5章 家庭科における概念型カリキュラムの展開の可能性

- 第1節 概念型カリキュラムの設計における留意点
- 第2節 概念型の授業づくりと評価

## 終章 本研究の総括

- 第1節 研究の総合考察
- 第2節 今後の課題と展望

## 序 章 研究の背景及び目的

近年、予測困難で急速に変化する社会に対応したコンピテンシーベースのカリキュラムの構築が検討されており、そのアプローチとして概念型学習が注目されている。概念型学習は、教科および教科の見方・考え方を働かせるための「本質的な問い」をもとに、一度身に付けると他の場面でも再現可能な「永続的な理解」を促し、子ども主体の学びの活動性や自立性を高めることが期待されている<sup>1</sup>。

家庭科は生活事象に係る諸問題を、普遍的な事実として知ることと、抽象的な概念として理解することを明確に区別し、スキルを習得するプロセスを通して、生活課題の解決に向けた行動ができるようになることが教科の目標である<sup>2</sup>。したがって、家庭科における概念の形成は、個人の価値観を変えるだけではなく、新しい価値観を創造する未来志向の概念形成につながるものである。

しかし、家庭科における従来の学習は、技能の習得や生活の定型的科学化に指導の重点が置かれている場合が多く、児童・生徒がリアルな生活実践の場において、主体的に生活に関わろうとする態度や、実生活に必要な汎用的スキルの獲得に至っていないことが課題とされている<sup>3</sup>。そのため具体的な知識や技能を暗記して学ぶのではなく、生活の視点を変えて見ることによって、事象の間の共通点や関係性を見出すことができ、新しい考え方や価値を創造することにつながる概念型学習が必要である<sup>4</sup>。

そこで、本研究では、家庭科における概念型カリキュラムの開発に向けて、家政学の視座から持続可能性の概念を育む家庭科授業モデルを構想し、その実践を通して、生徒の資質・能力の変容から成果を検証し、概念型の授業づくりへの提言を行うことを目的とする。

## 第1章 家政学の視座における家庭科の持続可能な社会の概念型学習の可能性

第1章では、文献調査により、家庭科の背景学問である家政学の持続可能性の概念を整理し、家庭科の教科特有の概念を探る。家政学 (Home Economics) は、人もエコシステムの一部と捉え、生活の営みを人間環境だけでなく、自然環境、地球環境に及ぶ全体的視野に立ち、ヒューマンエコロジー思想として発展してきた<sup>5</sup>。家政学におけるヒューマンエコロジーの特徴は、個人のエコシステムを最小単位として据え、個人と社会をつなぐエコシステムは、単体としての個人から家族・家庭、地域社会と広がる中で関係性が構築されるということにある<sup>6</sup>。個人は、エコシステムの最小単位であるが、そのシステムは他の大きなシステムと相互依存の関係にあり、個別の生活の質の向上 (ウェルビーイング) は、その関係性の中で展開されることになる。これは、個人が、それぞれに多様な思考・感情を持ちながらウェルビーイングを目指して活動を行っている一方で、社会全体のあり様を一つの生命体として概念化し、倫理的に行動する価値基準をもつことによって、再生産と修正をおこなっていることを論拠としている<sup>7</sup>。この家政学的問いの立て方におけるアプローチの仕方や方法は、知識と実践の統合が倫理や価値観に関わることで初めて成し遂げられることを意味しており、家庭科の教科観にも大きく関わっている。

## 第2章 家庭科の概念型カリキュラム構築に向けての理論的探究

家庭科の概念型カリキュラム構築に向けて、概念型カリキュラム全般の特性と指導の特徴を明らかにした上で、家庭科へのアプローチを試みる。概念型学習は、コンピテンシーベースのカリキュラムを考える上で、具体的な方略を示している<sup>8</sup>。先進国を中心に世界各国で概念型学習のモデルが既に確立されており、その学習モデルを活用した授業実践もさかんにおこなわれている。概念型学習の理念は、我が国が掲げる21世紀型スキルの育成<sup>9</sup>とも合致している。家庭科独自の観点から、児童・生徒により深い次元で理解させたい本質的な考え方を、教師がどのように設計するかのプロセスを明らかにした。また、家庭科が対象とする生活知を知識の獲得として終わらせるのではなく、生活主体としての行動までを意識した家庭科の概念型カリキュラムの構築と実践の必要性が示唆された。

## 第3章 「技術・家庭」家庭分野での概念型カリキュラムの構想

「国連・持続可能な開発に関するグローバル・レポート2019『未来は今：持続可能な開発を達成するための科学』<sup>10</sup>」（以下、グローバル・レポートとする。）を参考に、SDGsの構成概念を整理し、中学校「技術・家庭」家庭分野のカリキュラム・デザインを通して新しい価値観を創造する未来志向の家庭科を提案した。グローバル・レポートは、変革に向けて食料、エネルギー、消費と生産、都市の生活活動での構造転換が必要であり、それを達成するための6つの変革構造について述べている。グローバル・レポートの6つのエントリーポイントは、①人々の幸せ（ウェルビーイング）と能力向上、②持続可能で公正な経済、③持続可能な食料システムと健康的な栄養供給、④エネルギーの脱炭素化と普遍的アクセス、⑤持続可能な都市と郊外の開発、⑥地球環境コモンズとしての地球環境保全である。

概念型カリキュラム作成では、上記6つのエントリーポイントを題材に据え、それぞれの題材ごとに本質的な問いを立てた後、「技術・家庭」家庭分野の学習内容<sup>11</sup>に当てはめた。1、2年次の各学年では、家庭分野35時間（1年の初回のみ技術分野と融合）を割り当て隔週のカリキュラムとし、3年次では、技術分野と家庭分野を融合した全35時間のカリキュラムとした。技術・家庭科は、持続可能な社会の構築そのものが教科の目指すところであり、6つのエントリーポイント全てに教科の学習内容を含むことが可能であった<sup>12</sup>。

## 第4章 「技術・家庭」家庭分野での概念型学習の実践

コンピテンシーの育成を目指した概念型学習の開発のため、概念型学習サイクルモデル<sup>13</sup>に、中学校「技術・家庭」家庭分野での持続可能な消費システムを構築する衣生活内容の学習を照らし合わせ、概念型探究の可能性を検討した。概念型学習サイクルモデルは、従来の問題解決型の学習サイクルモデルとは異なった探究学習プロセスをとっており、そのプロセスには、Engage（始動）、Focus（焦点化）、Investigate（研究）、Organize（体系化）、Generalize（一般化）、Transfer（転移）の6つの段階があり、それぞれの段階は常にReflect

(振り返り)により再構築される。この学習サイクルモデルを活用して、指導計画を作成した。

教科等を貫く重要概念を「システム」とし、題材を通しての関連概念を「市場とトレンド」、 「持続可能性」とした。学習サイクルに、A 中学校家庭分野<sup>14</sup>の衣生活内容の授業を当てはめたところ、この学習サイクルは、1つのサイクルで完結するのではなく、1つの題材の中に螺旋状に何重にもサイクルが回っていると考えられた。さらに生徒達は、衣生活内容の学習後の夏休みの課題として、衣生活に関する課題研究に取り組んでいるため、本研究での学習サイクルが継続して行われた。学習の振り返りとして、生徒らにはこれまでの服選びの基準を見直す態度が見られ、持続可能な消費システムにつながる具体的な考え方や工夫の中で、自分中心の衣生活から主体的な消費者市民としての意識の変容が明らかとなった。また、本研究の授業実践では、題材の中で概念型探究を取り入れたことにより、生徒だけではなく、教師自身もエージェンシーとして授業のねらいを明確に捉えることができた<sup>15</sup>。

## 第5章 家庭科における概念型カリキュラムの展開の可能性

概念型学習は、その展開理論の難しさから、IB など一部の特別な学校でしか実践されていない。そこで一般公立学校における家庭科の授業で、概念型学習が広く実践されることをねらいとして、より多くの教員が展開できる家庭科の授業づくりの手順と評価の在り方を提案した。具体的には、学習指導案作成に際して、概念型カリキュラムを展開する上での課題と方略について、(1) 学習目標の明確化、(2) 児童・生徒の思考の流れと学習内容の構造化、(3) 概念の設定と教材の精選の3点から検討した。最後に、問いを前提とした学習活動の学習指導案の作成手順を提案し、家庭科における概念型カリキュラムの展望を述べた。

## 終章 本研究の総括

本研究では、家庭科における持続可能な社会の概念を取り入れた概念型カリキュラムを構想し、コンピテンシーベースの家庭科カリキュラムの構築を目指すことを目的として、次の結論を得た。(1) 家庭科における概念型カリキュラムを可能にするためには、家政学における生活システムの概念を切り口として、児童・生徒が自らの生活のあり方を主体的に考え、倫理観や共に生きることを大切にすることの価値の育成が重要である。(2) 6つのエントリーポイントを通して、家庭科の学習内容と、持続可能性の概念をつなぐことによって、家庭科の概念型カリキュラムを構想することができた。(3) 概念型カリキュラムの実践を通して、生徒の変容を分析した結果、持続可能性の文脈を個人、社会、環境の相互作用の視点から理解し、持続可能な社会につながる具体的な考え方や工夫について多くの生徒が提案しており、学習効果を検証できた。(4) 家庭科カリキュラムの展望として、問いを前提とした学習指導案の作成手順を提案し、具体的な事例を用いながら教育現場に広めていくことの必要性を認めた。

概念型学習は、児童・生徒の資質・能力を高めるだけではなく、教師のより自発的な授業デザインを助けることができる。そして、この授業デザインと教材研究の楽しさに気がつい

た教師および研究者らが互いに集えるような環境をつくり、教師教育を活性化するように力を注ぎたい。

## <引用文献>

---

- <sup>1</sup> Erickson, H. L., Lanning, L. A., & French, R. Concept-based curriculum and instruction for the thinking classroom. Corwin Press. 2017
- <sup>2</sup> 荒井紀子 他 編者, SDGs と家庭科カリキュラム・デザイン 探究的で深い学びを暮らしの場からつくる, 教育図書, 2020
- <sup>3</sup> 鈴木明子, コンピテンシー・ベースの家庭科カリキュラム, 東洋館出版, 2019
- <sup>4</sup> 竹下浩子, 鈴木明子, 家庭科における持続可能な社会の概念的理解の展開への試案, 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究 3 号, 2022
- <sup>5</sup> Doris R. Badir, Research: Exploring the Parameters of Home Economics, Vol.41 No.10, J. Home Econ. Jpn. 1990
- <sup>6</sup> Margarete M. Bubolz, Joanne B. Eicher, and M. Suzanne Sontag, The Human Ecosystem: A Model, J. Home Economics. Spring 1979
- <sup>7</sup> 丸山正次, 政治理論のパラダイム転換 環境政治理論, 風行社, 2006
- <sup>8</sup> H. Lynn Erickson, A Lanning, Rachel French 著, 遠藤みゆき, ベアード真理子訳, 思考する教室をつくる 不確実な時代を生き抜く力 概念型カリキュラムの理論と実践, 北大路書房, 2021
- <sup>9</sup> 国立教育政策研究所, 教育課程の編成に関する基礎研究 報告書7 資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理(平成 25 年度プロジェクト研究報告書 研究代表者 勝野頼彦) 2014
- <sup>10</sup> United Nations (UN), Global Sustainable Development Report 2019 - The Future is Now: Science for Achieving Sustainable Development, 2019  
[https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/24797GSDR\\_report\\_2019.pdf](https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/24797GSDR_report_2019.pdf)  
(2024.1.4 閲覧)
- <sup>11</sup> 文部科学省, 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 技術・家庭編, 開隆堂出版, 2018
- <sup>12</sup> 竹下浩子, 大本久美子, 大野真貴, 小曾根潮, SDGs の概念を取り入れた技術・家庭科における消費者教育の提案, 消費者教育, 第 42 冊, 2022
- <sup>13</sup> Carla Marschall, Rachel French, Concept-Based Inquiry in Action, Corwin, 2018
- <sup>14</sup> 大野真貴, 大本久美子, 竹下浩子, SDGs を軸とした技術・家庭科(家庭分野)の授業デザインの成果と課題, 消費者教育, 第 42 冊, 2022
- <sup>15</sup> 竹下浩子, 大本久美子, 大野真貴, 消費者教育における概念型探究の可能性 -中学校技術・家庭(家庭分野)の衣生活内容の学習を通して-, 消費者教育, 第 43 冊, 2023

## <参考文献>

エスリー・アン・ヴェア著, 住田和子, 住田良仁訳, 環境教育の母 : エレン・スワロウ・リチャーズ物語, 東京書籍, 2004

---

Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC), Climate Change 2021: The Physical Science Basis, 2021.<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg1/> (2024.1.4 閲覧)

International Institute for Applied Systems Analysis (IIASA), Transformations to Achieve the Sustainable Development Goals. Report prepared by The World in 2050 initiative, 2018  
[http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15347/1/TWI2050\\_Report081118-web-new.pdf](http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15347/1/TWI2050_Report081118-web-new.pdf) (2024.1.4 閲覧)

家庭科教育学会編, 生活をつくる家庭科 第2巻 安全・安心な暮らしとウェルビーイング, ドメス出版, 2007

Bhaskar, Roy. Collier, Andrew., “Introduction Explanatory Critiques” in Margaret Archer et al. (eds) Critical Realism: Essential Readings, London: Routledge, 1998

奈須正裕, 教科の本質を見据えたコンピテンシー・ベースの授業づくりガイドブック—資質・能力を育成する15の実践プラン—, 明治図書出版, 2017

国立教育政策研究所, OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment, PISA2015年調査国際結果報告書生徒の well-being (生徒の「健やかさ・幸福度」), 2017  
[https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/pisa2015\\_20170419\\_report.pdf](https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/pisa2015_20170419_report.pdf) (2024.1.4 閲覧)

日本家政学会家政学 SDGs ポジション・ステートメント検討委員会, 「日本家政学会の SDGs ポジション・ステートメント (2023.2.20)」, 2023

文部科学省, 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 家庭編, 東洋館出版, 2018

文部科学省, 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 家庭編, 教育図書, 2019

OECD, How's Life? Measuring well-being, OECD Publishing, Paris, 2011  
[https://read.oecd-ilibrary.org/economics/how-s-life\\_9789264121164-en](https://read.oecd-ilibrary.org/economics/how-s-life_9789264121164-en) (2024.1.4 閲覧)

OECD, PISA 2015 Results (Volume I), Excellence and Equity in Education, OECD Publishing, Paris, 2016  
[https://read.oecd-ilibrary.org/education/pisa-2015-results-volume-i\\_9789264266490-en](https://read.oecd-ilibrary.org/education/pisa-2015-results-volume-i_9789264266490-en) (2024.1.4 閲覧)

OECD, Skills for Social Progress: the Power of Social and Emotional Skills, OECD Skills Studies, OECD Publishing, Paris, 2015  
[https://read.oecd-ilibrary.org/education/skills-for-social-progress\\_9789264226159-en](https://read.oecd-ilibrary.org/education/skills-for-social-progress_9789264226159-en) (2024.1.4 閲覧)

OECD, OECD Future of Education and Skills 2030 2030 OECD Learning Compass 2030 A Series of Concept Notes, OECD Publishing, Paris, 2019  
[https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/OECD\\_Learning\\_Compass\\_2030\\_Concept\\_Note\\_Series.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/OECD_Learning_Compass_2030_Concept_Note_Series.pdf) (2024.1.4 閲覧)

OECD, Curriculum (re)design A series of thematic reports from the OECD Education 2030

---

project OVERVIEW, 2020

<https://www.oecd.org/education/2030-project/contact/brochure-thematic-reports-on-curriculum-redesign.pdf> (2024. 1. 4 閲覧)

白井俊, OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来 エージェンシー, 資質・能力とカリキュラム, ミネルヴァ書房, 2020

住田和子編, 生活と教育をつなぐ人間学, 開隆堂, 2003

United Nations Sustainable Development Solutions Network (SDSN), Sustainable Development Report 2019, 2019

World Commission on Environment and Development (WCED), Report of the World Commission on Environment and Development: Our Common Future, 1987

<https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/5987our-common-future.pdf>  
(2024. 1. 4 閲覧)